

関連項目：指導体制プラン①、教育活動プラン⑤

「ルール・マナー集」を活用して子どもが自分で生活目標について考え守っていかこうとする態度を育てる

目的

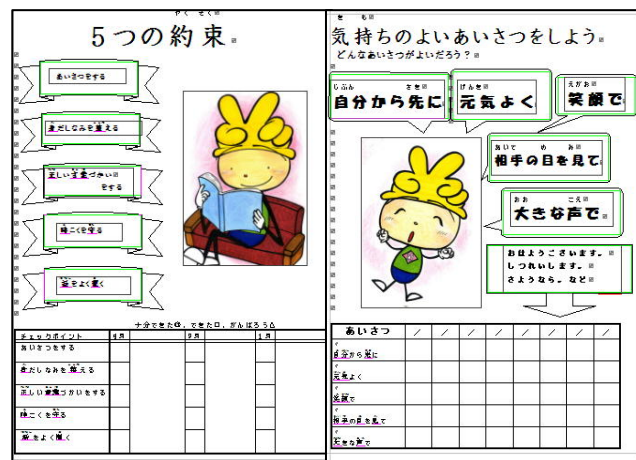
本校の児童は、明るく活発であるがあいさつや服装、話の聞き方といった基本的な生活習慣をきちんと身につけて守っていくことをそれほど大切なことと思っていないところもあります。そこで、先生に言われて直すのではなくて自分から意識してよりよい学校生活を送っていかこうとする態度を育てようと考え、「ルール・マナー集」を活用することにしました。

内容

● 「ルール・マナー集」を作成

本校児童が気をつけておかないといけないルールやマナーを5つ取り上げ、児童一人一人が手持ちにできるように小冊子にしました。

5つの約束	・あいさつをする
	・身だしなみを整える
	・正しい言葉づかいをする
	・時刻を守る
	・話をよく聞く



● 教育活動での「ルール・マナー集」の活用

最初は、週番の教員が、その月の生活目標と関連づけて使用できるように児童に呼びかけたり、使い方の例を示したりしました。

また、長期休業前や自由に日を決めて振り返りができる欄を設けて学年や学級の実態に合わせて使用できるようにしました。

● 「ルール・マナー集」の改善

「話をよく聞く」の目標を現職教育の伝え合うという課題とつないで活用している学級を見習って教室掲示用のパネルを作り、ラミネートをして水性ペンで書き込んだりシールを張り込んだりできるようにしてより意欲的に取り組めるようにしました。

また、年間3回程度達成状況を調べ、学級・学年毎にどの項目がよくできているか、課題がどこであるかを把握してその後の指導に生かすようにしました。

成果

こうした取り組みをすることで、どの項目も8割以上の児童がルールやマナーをきちんと守っていかこうとする姿勢が見られるようになりました。課題としては、言葉遣いのような項目は、高学年になるにつれて馴れ合いになっていく傾向が見られるので校内生徒指導委員会と連携して意識を高めていく手立てを考えていく必要があります。